

ワーク・ライフ・バランス

男女共同参画会議 仕事と生活の調和に関する専門調査会より、『ワーク・ライフ・バランス』推進の基本的方向(中間報告)』が、平成19年5月24日の男女共同参画会議にて報告されました。

永い間、「男は外、女は内」の社会的認識。男女の役割の中で営まれてきた暮らしに、社会だけではなく、地域も家庭も子育てにも歪みが生じてきたようです。時代が変わり、教育が変わり、男女の平等から共同の情報を見聞きしていても、人々の暮らしでの認識は、なかなか変わらないのが実情のようです。経済に価値と豊かさを求め、必要以上の教育を最優先したことで、見失ってしまったことや置きざりにしてしまったことがあります。

父親の長時間労働、子どもの塾通いなどにより、家庭における仕事の配分や家族のコミュニケーションの希薄化が進みました。その

ため、家庭での教育や地域ぐるみの子育ての環境にも影響を及ぼしています。社会(職場)、地域における人とのつながりに目を向け、これからの暮らしに活力を持てるようにと提唱されたのが「ワーク・ライフ・バランス」です。

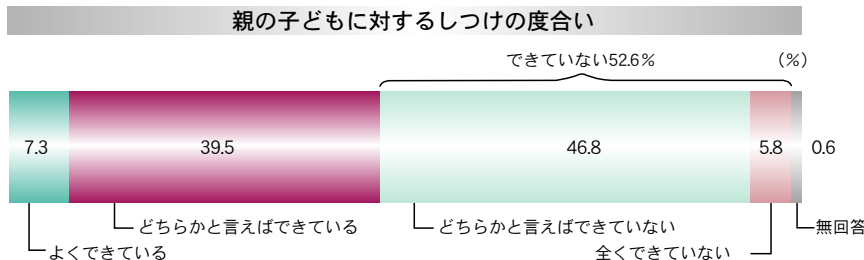
近年の地域環境としては、ボランティア活動をはじめ、多種多様な地域活動が提供されています。仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、自ら希望するバランスで展開できる状況があります。男女一人ひとりの多様性が尊重され、仕事と生活の好循環が生まれ活力ある社会を目指すことができるかと期待されます。

内閣府の調査では、昔より親子どもに対して、しつけができていないと感じている人が53%と過半数を上回りました。親の責任感の欠如以外に、家庭においてもテレビやゲーム遊びなどで、家族と触れ合う時間が持てないことが問題とされています。また、「人とのつながり」の希薄化は、地域における子育て支援や防犯・治安の機能の低下、仕事でのストレス増加に

もつながるとも言われています。

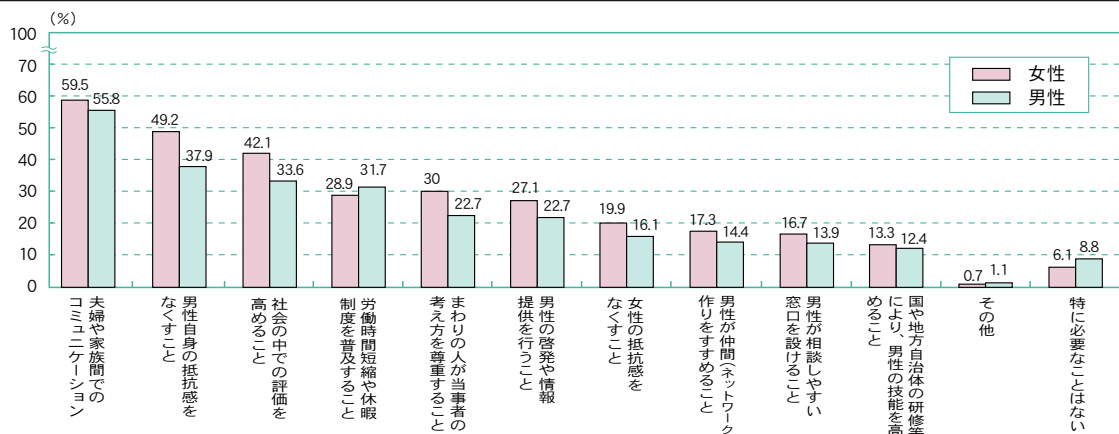
これからは、男女一人ひとりが、自分に適した「仕事」と「生活」のバランスを見出し、持続可能な生き活きとした社会を目指した「ワーク・ライフ・バランス」の推進が図られます。

昔と比べて親は自分の子どもに対してしつけがあまりできていない



(備考) 1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2007年)により作成。
2. 「昔に比べて親は自分の子どもに対して社会規範やしつけがきちんとできていると思いますか。(〇は1つ)」という問に対する回答者の割合。
3. 回答者は、全国の15歳以上80歳未満の男女3,361人。
資料出所: 「国民生活白書2007年版」より

男性が家事・育児・介護・地域活動へ参加するために必要なこと(2004年)



出所: 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査2004年より作成
資料出所: 独立行政法人国立女性教育会館 男女共同参画統計データベース
日本の女性と男性2006(ぎよせいより)